

◀「報告書詳細版」は巻末の付録USBメモリに収録しています▶

第8部

サイバーセキュリティ情報交換技法(概要版)

宮本 大輔、門林 雄基

第1章 CYBEX WG 2017年度の活動

近年、様々なサイバーセキュリティ技術が開発されており、その普及は急務である。これまでのCYBEXWGは、様々なサイバーセキュリティ技術の先端的研究成果や運用によって得られた知見について、国際標準化活動などの様々なチャネルを通じ、多くのステークホルダーに啓蒙することを目的とした活動に従事してきた。

今年度の主な活動内容は以下の通りである。詳細はwide-memo-CYBEX-report2017-00を参照のこと。

- サイバーセキュリティ情報交換に関する規制動向調査
サイバー犯罪に用いられる技術、それに対抗するサイバーセキュリティ技術は著しく進歩している。その一方で、サイバーセキュリティに関する運用では、組織の壁を越えた情報共有が求められる。この取り組みについて、欧州ではNIS Directiveによって、米国ではCISAによって情報共有を推進している。この動向について調査を行った。
- サイバーセキュリティ標準を学ぶための教材開発
実施すべきサイバーセキュリティ対策について学ぶことができる教育ツールは多数存在する。既存の教育ツールは一部の脅威についての攻撃の仕組み及び対策について学習可能であるが、様々な脅威に対して実施すべき対策を学べることができない。また、常に最新の様々なサイバー攻撃について理解するには、高いモチベーションを保ちながら継続学習する必要がある。そこで、既存の様々な攻撃手法から効率的に自システムを防御するための対策についてカードゲーム形式で学べる教育ツールを作成した。

今年度は標準化活動を通じ、あるいは標準化された技術の新たな利用方法を考えることにより、幅広いステークホルダーにセキュリティに関する知識を啓蒙していく研究を行った。この結果、RFC8134 [101], RFC8274 [102], X.1212 [103] の3件の提案が結審された。来年度も継続し、CYBEX WGのみならず他のWG、あるいは全世界で創出される素晴らしいセキュリティ技術を、より多くのステークホルダーに広めていく活動を継続していきたい。